

**製品名: RAR $\beta$  ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab16904**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	50kDa

**抗原情報**

遺伝子名	RARB
別名	RARB; HAP; NR1B2; Retinoic acid receptor beta; RAR-beta; HBV-activated protein; Nuclear receptor subfamily 1 group B member 2; RAR-epsilon
遺伝子 ID	5915.0
SwissProt ID	P10826
免疫原	抗血清は、ヒトレチノイン酸受容体 $\beta$ 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 331-380

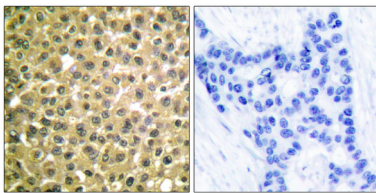
**背景**

この遺伝子は、核転写制御因子である甲状腺ステロイドホルモン受容体スーパーファミリーの一員であるレチノイン酸受容体  $\beta$  をコードする。この受容体は細胞質および核内コンパートメントに局在する。レチノイン酸はビタミン A の生理活性型であり、胚の形態形成、細胞増殖、分化における細胞シグナル伝達を媒介する。このタンパク質は、遺伝子発現を制御することで多くの細胞種の増殖を制限すると考えられている。この遺伝子は、肝細胞癌において初めて同定され、B 型肝炎ウイルスの組み込み部位に隣接している。代替プロモーターの使用と差次的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2014 年 3 月]、ドメイン：調節 N 末端ドメイン、DNA 結合ドメイン、および C 末端ステロイド結合ドメインの 3 つのドメインで構成される。機能：これはレチノイン酸の受容体である。この代謝物は脊椎動物の発生に大きな影響を与える。レチノイン酸は形態形成因子であり、強力な催奇形性物質です。この受容体は遺伝子発現を直接制御することで細胞機能を制御します。類似性：核ホルモン受容体ファミリーに属します。類似性：核ホルモン受容体ファミリーに属します。NR1 サブファミリーです。類似性：核受容体 DNA 結合ドメインを 1 つ含みます。

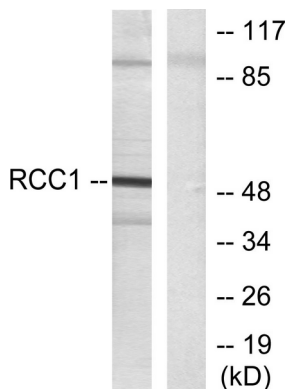
## 研究分野

がんの経路;小細胞肺がん;非小細胞肺がん;

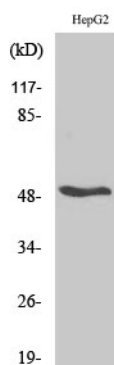
## 画像データ



レチノイン酸受容体  $\beta$  抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



レチノイン酸受容体  $\beta$  抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



RAR $\beta$  ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析

